

区民と区長の対話集会  
「さとことブレスト」(第9回)

令和5年6月27日(火)

杉並区都市整備部 都市計画道路担当

## ◆第9回 さとことブレスト（東京女子大学）

開催場所：令和5年6月27日（火） 午後1時15分～午後2時45分

場所：東京女子大学7号棟2階7203教室

参加対象者：東京女子大学国際社会学科コミュニティ構想専攻 まちづくりゼミ4年生

参加者人数：14名

## ◆ブレインストーミング

1班3～4人ずつ1班から4班の4班に分かれて、前半と後半の二段階に分けてブレスト形式（※）により実施。

区長は各班を前半後半1回ずつ回りながらブレストに参加。

○前半は、次の3点の内容を中心にブレスト

①まちづくりの関心事はどこにあるか

②道路について、どうあると良いか

③今後のまちづくりや道路整備の進め方

○アイスブレイク

靱山教授による前半の振り返り

○後半は、西荻窪のまちづくりと関連付けた道に関する、自由な考え・アイデアについてブレスト。

○ブレスト終了後、班ごとに発表。

○講評

※ブレスト：ブレインストーミングの略。あるテーマについて数人で自由なアイデアを出し合う会議の方法です。

## 岸本区長の発言内容（挨拶）

皆さん、こんにちは、区長の岸本聡子です。

本日は、靱山先生のご協力で、東京女子大の4年ゼミに出張し、「さとことブレスト」を行わせていただくことになりました。本当にありがとうございます。皆さんが学習している国際社会学科コミュニティ構想という内容を聞き、まさに杉並のまちづくり、西荻窪の都市計画道路からまちづくりを考えていくための議論をしたいと思う学生たちとこの場を設けられたことをありがたく思います。準備してくれた先生、職員に感謝したいと思います。

ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、私、ちょうど1年前に区長に就任しまして、その頃に東京女子大学に来ています。選挙でくたくたに疲れたところでここに来ました。蓮の花がある池を見て癒された記憶があります。

杉並区には様々な課題がありますが、西荻の都市計画道路132号線もその一つです。ここから大変近いので皆さんもなじみがあると思いますが、どのように公共空間としての道路がまちの人たちと一緒に成長、発展できるかということ、まちづくりの中で考えていきたい。今日はワークショップで、意見を交わしていただきたいと思います。

昨年からは既に西荻で4回、高円寺で4回この「さとことブレスト」をやってきて、様々な意見をいただきました。しかし、公募や無作為抽出とかをしていると、なかなか10代20代の方に来ていただくことが少ないです。未来のまちづくりについて、ぜひ、20代の大学で勉強している皆さんにお話を聞きたいと思って、この機会を設けました。

今日は楽しんで頂きたいですし、活発な議論をして頂きたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

## 東京女子大 靱山教授の発言内容（アイスブレイク）

今回、杉並区役所の方からの依頼で、区民向けに定期開催している対話集会を、ゼミ内という形ではありますが、特別に東京女子大学でも開催していただくことになりました。

ちなみに、本日のグループワークは、(名言されてはいませんが) 後半で議論してもらおう「都市計画道路問題」が本題なんだと思います。そこで、本題に入る前に、この都市計画道路の件について、僕がどのように考えているかについて、少し話しておきたいと思います。

では、質問です。みなさんは靱山が、都市計画道路の件について賛成派なのか、それとも反対派なのか。どちらだと思いますか？

学生 A「割と賛成派じゃないかなと思う」

学生 B「中立派を保ちつつも、依頼された企業にのる」

どちらも正解かな。私が、まちづくりコンサルタントとして、本件に関わる立場だったとします。もし賛成派に頼まれれば賛成の立場、また反対派に頼まれれば反対の立場となるかもしれない。もちろん、それは都合よく、お金をもらえる方になびくという意味ではありません。政治もまちづくりも、イシューとなるクリティカルな議論において、賛成でも反対でもどちらにも明るい未来はあるし、どちらにも悲しい未来があると私は考えているからです。

例えば、みなさんも知っている身近な事例でいえば、下北沢の小田急線地下化。開発段階で地下化によって駅前に突如現れた広がる使い道のイメージできない遊休地を見て、多くの人が下北沢の街の未来を憂いだ。かつて駅前に広がっていた闇市を含めた既存密集市街地とのギャップも大きかったのではないのでしょうか。ごちゃごちゃはしているけど、日本の若者文化がぎゅぎゅっと詰まった魅力的な下北沢の街が破壊されてしまうのではと、まちづくりに関わる人も、そうでない人も、騒ぎました。一方で、2020年以降、低層かつ小さなボリュームが連続する、歩いて楽しめる下北沢線路街が順次開業、あれだけ溢れていたネガティブな意見も、現在ではほとんどなくなったのではないのでしょうか。

もちろん、事業主である鉄道会社にとって、短期的な経済合理性のみを考えたら、現在とは全然違う活用方法もあったかもしれない。線路の上にはもちろんタワマンは建てられませんが、例えば隣接敷地を絡めた再開発によって、今までは建てられなかったタワマンが建てられるようにすることもできたかもしれない。

悪意をもった大人（事業者）がやれば、悲しい未来もいい未来もつくれる。西荻も同じで、都市計画道路が通ることによって、いまよりも魅力的な西荻のまちがつかれるかもしれないし、そうじゃないかもしれない。一方で、世の中はもちろんいい大人ばかりではないので、悪意をもった大人を、どのように排除していくのかということが、政治だったり、自治体のやるべきことなんじゃないかと思っている。

それをやるために、もしかしたら杉並区役所のみなさんは、この問題をたくさんの区民の方に知ってもらって当事者意識を持って向きあってもらおうと、こうした対話の場を継続的に開催してくれているのかもしれない。こそこそと、誰にも気づかれない方法や、場所で本件を進めていくこともできたわけで。なので、ぜひ本日は皆さんの本音をぶつけてみてください。

## 各班の発表内容

### ■ 1班

- ・治安の良さや、よく使う施設が近くにある等の住みやすさが、まちづくりをする上で重要である。
- ・区内の道路は狭く、ボコボコしたりしていて、ベビーカーを押す人などが押しづらそうにしているのをよく見るため、広く整備されている道路がいい。
- ・住民と自治体がお互いを理解しながら進めていくことが重要だと思う。
- ・子供が学びながら安心して豊かに暮らすために、教育や子育てのしやすさがまちづくりでは重要である。
- ・どんな人にとっても道路の安全が確保されていることが一番大事。
- ・ただ通過するだけの道路は寂しいし、にぎわいがないと防犯面で危ない。
- ・狭い道路が多い中で、事故が起こりにくいように見通しを良くするなど、みんなが気を付けて通行するような仕組みが必要。
- ・住民からのボトムアップ型で、住んでいる中の現状と課題などの意見を把握して取り入れることが重要であると思う。
- ・全国的に繋がりが希薄化し、地縁がなくなっているなので、今はそこに注目するときにある。以前、西荻を調査した際に、店舗の方の中には商店街との繋がりを求めている人もいた。コミュニティの重要性を伝えていった方がいい。
- ・歩行者にも車にも使いやすい道路。
- ・にぎわい、空きビルの利活用が今後の課題。
- ・10～20年後にどういった人が住むのか、見据えながらまちづくりを進める視点が必要。
- ・名古屋市の大通りでは、道路利活用でマルシェを実施している。
- ・休日に訪れたい街にしたい。
- ・西荻や高円寺、阿佐ヶ谷はそれぞれ個性があるので、まちの個性を活かしてまちづくりに取り組んだ方がいい。西荻は、お菓子屋やアンティークショップなど個人店が並んでいてごちゃごちゃしている感じ。
- ・道路沿いにゴミ箱が欲しい。
- ・図書館などが近くにないので、大学を解放できるといい。
- ・道路の途中で休憩スペースが欲しい。
- ・道路は暮らしの一部なので、拡張しても生活者目線第一で。
- ・チェーンの大規模なスーパーではなく、既存店をテナントとして誘致したオリジナルスーパーがあるといい。

## ■ 2班

- ・ 事業の透明性は重要。
- ・ 生活圏の変化、賑やかさ、治安のよさ、景観は、まちづくりにおいて、関心を持っている。
- ・ 住んでいる街に対して、満足できているか。
- ・ 西荻はバス通りでも狭い箇所があり、歩行者として怖い、使いづらい。
- ・ 広い道路に車を通すことで、商店街等の狭い道への車の流入量が減り、歩行者が快適になる。
- ・ 道路は歩車分離されている方が安心。
- ・ 凸凹じゃない道路が良い。
- ・ 事業を進めることによって、現在の暮らしが大きく脅かされないことは重要である。
- ・ 事業のメリットを明確化し、住民に周知することが大切である。
- ・ 西荻は東京の中で住民参加が進んでいる。
- ・ 既に出来上がっている街だから、より住民参加が重要である。
- ・ 西荻は内外かかわらず、街に愛着を持っている人が多い
- ・ 工事中に日常生活への支障が出た。(具体例：ゴミ出しが早まり、ルーティンワークを乱される)
- ・ 地権者にしか事業が知らされないのはよくない。
- ・ 土地所有者は、事業について知っているが、そこを借りている人が、事業について知らない。
- ・ 授業でヒアリングした際に、西荻でパティスリーを営む人たちに、多世代な人がいて、昔ながらの雰囲気のある西荻だからお店を開いたという意見を持つ人が多くいた。
- ・ 変わるのを望んでいない人も多いように感じる。
- ・ 若い世代のことを考えると、今のままでもいられない。
- ・ 小中学生など子供たちから意見を聞けば斬新なものが出るかも。
- ・ スマホを使って意見をいえるようなシステムがあればいい。
- ・ 誰でも気軽に意見だしできるようなシステムがあればいい。
- ・ SNS (ハッシュタグ) を用いて、意見募集するコンペを開催しても面白い。
- ・ 事業を進めるにあたり、様々な方々から意見を聞くこと等によって、なるべく摩擦を減らすことに注力すべき。
- ・ 住民には、道路計画を行政が勝手に進めてしまうものという風にとられてしまう。
- ・ 住民自身がまちづくりに関わるという認識が広がればよい。
- ・ 住民と行政は対等
- ・ みんな (行政・住民) でまちを一緒につくっていく方がおトク。

### ■ 3班

- ・アスファルトや看板の色、建物などの色に興味がある。
- ・沖縄の人が塀や石畳がある街並みが好きなように、住んでいる人が街を好きになるような工夫があると良い。
- ・移動しながら観光できるように交通の便がよくなると良い。
- ・西荻は狭く、保育園の方や歩行者に対して危険なので、安全性が必要だと思う。
- ・自転車で通学する時、車道の真ん中を通らざるを得ない時があって危険。
- ・歩道でベビーカーとすれ違うことがあった時は怖かった。
- ・大学生の目線としてバスや自転車、徒歩でよく移動するためそれらの安全性が高まると良い。
- ・西荻窪の商店街は道路沿いに店舗がたくさんあり、魅力的に感じる。
- ・高円寺のキタコレビルのようにアートを活用した事例のようなまちづくりがあると良い。
- ・西荻窪は歩いていても楽しい街だと思う。そのため歩行者を中心とした、広い歩道や夜は街灯が点いているような歩行者に優しい道路であつたら良いと思う。
- ・街を歩いて楽しめる一つの手段としてキックボードが良い。
- ・自転車専用レーンやキックボード専用レーン、キックボード専用駐車場が欲しい。
- ・カーブミラーがあると安全。
- ・緑や木を増やして道路に日陰をつくってほしい。
- ・疲れていても休むところがないので、休憩できる場所としてベンチがあると良い。
- ・韓国は街中にイスを置いているようだから日本も見習った方が良い。
- ・道の途中にゴミ箱があると良い。個人商店だと時々ゴミ箱を置いているのを見かける。
- ・八百屋さんやスーパーなど駅前に増えてほしい。商店街が賑やかになると思う。
- ・以前ゼミで、道路用地の暫定利用をテーマに、マスキングテープを使って社会実験をしたことがある。132号線でも実際の用地を使って同じことができたら嬉しい。
- ・これからのまちの将来像について、社会実験をたくさんして、共通の認識を形成していくのが良いと思う。
- ・南青山の「SHARE GREEN」は芝生がきれいで、お花屋さんや若いアーティストの展示会をやっており、ピクニックもできる。池袋にも似た場所があり、休日はみんな寝転がったりしていた。
- ・若いアーティストとまちの人が出会えるような機会として、残地を活用したイベントを実施していきたい。
- ・アーバンキャンプのように自然に触れながら都市の便利さを享受できるようなイベント地として残地を活用していきたい。
- ・単なる道路づくりは交通量が増えるだけで今の時代に合っていないと思う。
- ・生活道路として居心地が良い、住んでいて暮らしやすい環境としての道路づくりがいい。

## ■ 4 班

- ・子育てがしやすいまちづくり。
- ・杉並区ではコロナのワクチン接種を子供、若者から積極的に進めていたことなどから、若者目線な区だと感じている。
- ・誰もが利用できるコミュニティ空間があると良い。
- ・老若男女、外国人含め誰でも住みやすいまちを目指すべき。
- ・夜に人通りが少ない暗い道があるため、街路灯を増やすなどしてほしい。
- ・災害時に誰もが安全に避難できるように、日頃から防災訓練を実施すると良い。
- ・街の中に緑があると、歩いていて気持ちがリラックスし、涼しさや歩きやすさを感じる事ができる。
- ・景観などの目に見えるところからまちづくりをしていく。
- ・広い道路は歩行者にとっても歩きやすい。狭いと自転車とのすれ違いが危ない。
- ・自転車と歩行者が安心して通行できる道路にすべき。
- ・車道や歩道に自転車通行用の道路があると良い。
- ・自転車と歩行者、車の通行を分離する。
- ・以前に豪雨で冠水している道路があり、そういった被害に対する対策も必要。
- ・路面が荒れている道路があり、滑らかな道路に改修していくべき。
- ・死角のある曲がり角は、自転車が急にでてきたりすることがあり、危険なため、改善してもらいたい。
- ・舗装の色を明るくすることで、道路が広く見えたり、涼しさを感じる事ができる。また、熱を吸収するような特殊な舗装にするのも良い。
- ・道路の脇にベンチなどを設置してほしい。ベンチがあれば道路に座り込むような人がいなくなり、治安も良くなる。
- ・設置するベンチのデザインをその土地らしいご当地感のあるデザインにすることで、地域を活かした景観になる。
- ・まちづくりをする上で住民との合意形成が大事。
- ・道路拡幅では計画内に住んでいる人の生活を考えると、なかなか難しいようにも感じる。
- ・道路を拡幅する場合は、住民の方がイメージしやすいように、現況と拡幅後の幅をマスキングテープ等で示し、体感できるようにするのが良いのでは。近年の技術だと VR を活用し、拡幅後の道路イメージを具体的に見てもらうのも良い。
- ・歩行者目線、車両目線での道路づくり。
- ・緊急車両の進入がスムーズになると良い。
- ・幅が狭い道路で緊急車両が停止中に、一般車両や歩行者の通行が滞っているのを見たことがある。



## 岸本区長の発言内容（プレストを終えて）

皆さん、今日は本当にお疲れ様でした。短い時間であったにも関わらず、結構ソフトなところから最後はギュギュっときた感じで、先生の途中の刺激が大きかったなと感じることがあって楽しく過ごさせて頂きました。また今日は、若手の職員がそれぞれのテーブルに入って、どちらかというベテランの人たちがまわりで見守っているという結構贅沢なワークショップだったと思います。

先生がおっしゃったように、道路とまちづくりを考えるということに関して、透明性をもって関わる色々なチャンネルを作っていくことで、より良い未来を創っていくことが、杉並区の全てのプロジェクトにおいて共通のことだと思います。

特に西荻窪の道路は駅につながっている所ですし、今日もたくさん意見が出ましたけど、西荻には多くの商店会があり、まちを愛する人たち、まちを作ってきた人たちがいるところで、個人商店があって、歩いて楽しい、西荻らしい町、そんなキーワードを今日のワークショップの中で聞かせて頂きました。

皆さん前向きにポジティブにお話して頂きました。私自身が選挙に出たのも132号線が1つの争点でした。まだまだ地域の中には、132号線を拡幅しなくても明るい未来があると信じている人たちもたくさんいらっしゃいます。そこには1つの真実もあると思っています。そして逆に、拡幅して、公共空間を広げたときの明るい未来もきっとあるだろうと思っています。そこには時間もお金もかかりますので、行政として真剣に慎重にしっかりやっていきたいと思っています。

これまで、ワークショップをたくさんやってきて、これを形にしていく仕組みというものが必要と思って今考えているのが、『(仮称)ニシオギデザイン会議』です。継続的に住んでいる方たちや専門家の方たち、商店の方、地主の方、みんなが参加できる透明性をもった会議体、対話の場を作っていきたいと思っています。そこでは、その場に行かなくても、議論がどう発展していくのかを可視化できるようなデジタルツール（公民連携プラットフォーム）も活用していく予定です。特にコミュニティ構想専攻の皆さん、そして靱山先生のようなまちづくりの専門家の皆さんも積極的に関わっていただいて、関わらなきゃ損という話もありましたけども、みんなで良い未来をつくっていききたいと思っています。

今後、お知らせもさせて頂きます。そして実証実験もアイデアがあってこそだと思っていますので、ぜひ積極的に声を出して関わって頂きたいと思っています。

今日は本当にありがとうございました。